

登録コード:MH184200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	基礎看護学実習（看護実践）【22M以降】 Clinical Practicum in Fundamental Nursing（Nursing Practice）			
担当教員	浅野 美礼 他 小林 千世・山口 大輔・上原 文恵			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年 前期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	2単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH25カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		看護専門職者に必要な、入院中の患者を受持ち、看護過程の展開の基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、入院患者のフィジカルアセスメント等の情報収集を行い看護問題を抽出し、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて看護問題の有無の判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	
	対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。		医療の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として看護計画を立案し協働的に役割を担うことができる。	
	プロフェッショナリズム 看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動し、看護計画の実施や修正をすることができる。	
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿、キャリア			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	信州大学医学部附属病院において入院中の患者を受持ち、電子カルテやフィジカルアセスメント、日常生活援助を通した情報収集により得られた病気や治療、日常生活に関する情報を分析して看護問題を抽出し、看護計画の立案、実施・評価を行い、看護を具体的に実践する看護過程を学ぶ。また、個人情報の保護や患者の権利を擁護する看護学生としての倫理行動を理解するとともに、患者および看護への理解を深める。 本科目は、1、2年次で学んだ「解剖学」「生理学」「看護学概論・」」「コミュニケーション方法論・」」「症候学」「内科学」「基礎看護学実習・」を前提として学んでいくことになります。そして、3年次に行う各論実習の重要な基礎知識になります。 本授業は、教員の医療機関における実務経験を活かして授業します。			
授業計画	1．実習前オリエンテーション 1) 第1回学内オリエンテーション 日時：2026年7月1日（水）2時限 場所：311番教室 内容：基礎看護学実習の目的・目標及び概要について説明する。 2) 第2回学内オリエンテーション 実習病棟毎、実習日程にあわせて行う。 時間・場所：実習グループごとに担当教員からの指示される。 内容：病棟、受持患者の情報を得て、受持患者を決定する。 2．病棟実習 8月17日～9月11日に2グループに分かれて9日間病棟実習を行い、実習終了後に学内で実習のまとめ報告会と授業アンケートを行う。 日程： 2026年8月17日(月)～8月28日(金) 2026年8月31日(月)～9月11日(金) 3．実習内容 入院患者を受持ち、看護過程を展開する。			
授業の進め方	患者を受け持ち、看護過程を展開します。 患者の退院等のより、二人目を受け持つことがあります。 実習中の受持患者への援助は、教員または病棟スタッフとともに行います。 実習前週に担当教員から受け持ち患者の紹介を受けた後、健康障害について自己学習を行います。 実習第1日目に、病棟オリエンテーションを行い病棟の特徴、構造、看護体制などについて説明を受けます。また、受持患者の紹介を受けます。 その後は病棟スタッフの行う看護に参加しながら、受持患者の状態や病棟生活の様子を観察したり、電子カルテ等から情報収集を行い、看護過程を展開します。			

授業の進め方	実習中は毎日学内でカンファレンスを行い、経験や学びの共有を行います。 実習第4日目、7日目は、学内でアセスメントや看護計画について検討します。 実習第8日目の午後は、学内でアセスメントや看護計画について検討します。 第1週目の金曜日は看護問題に関するカンファレンス、病棟実習最終日は病棟実習のまとめのカンファレンスを病棟スタッフが参加して、病棟で行います。
テキスト、教材、参考書	・看護学概論、コミュニケーション方法論 ・ 、看護方法論 ・ ・ で用いたテキストおよび参考書、資料
成績評価の方法	実習への取り組みと受持ち患者の実習記録から看護過程授業目標への到達度を総合的に評価します。 総合的評価の配分は、実習記録の最終版60%、最終課題レポート20%、実習中の記録更新状況10%、カンファレンスでのグループへの貢献度10%です。 成績評価の基準に則って、実習中の記録更新状況及び最終提出記録、実習での報告、記録、カンファレンスへの取り組みで評価します。 最終課題レポートで評価します。
成績評価の基準	実習評価表を用いて目標への到達度を評価します。 60%に到達しない場合は、追加課題への取り組みや成果の内容によって再評価します。 課題レポートは、 課題に対応した適切な内容である。 自分の考えを説明できている。 自分の考えの根拠を説明できている。 指定された書式であり、記載項目に不足がない。 既存の内容に依存していない。 期限内に提出している。 ～ を満たしており、自分の考えを説得力を持って明確に説明されているレベルであれば「秀」。 ～ を満たしている場合は「優」。 ～ を満たし、～ にやや課題が残る場合は「良」。 ～ を満たし、～ にやや課題が残る場合は「可」。 総合して、秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点と評価します。
事前事後学習の内容	事前学習： ・翌日の実習目標、実習行動計画を立案する。 ・翌日の実習計画を患者の病状や安全や安楽に配慮して実施できるように、知識の補充や技術の復習などの自己学習を行う。 ・実習の展開に従って、得られた情報やアセスメントを記録用紙に記録する。 ・明らかになった看護上の問題について、目標及び援助計画を記録する。 事後学習： ・実習中に得られた情報を1日の行動計画用紙に記録する。 ・1日の実習を振り返り、自己の思考や態度・行動などについての考えを記録する。 ・実習で得られた情報を、実習の展開に沿って記録用紙に記録する。 ・病棟実習での学びをグループごとに資料にまとめ、報告する。 ・病棟実習、まとめ報告会などの経験を通して得られた学びをレポートにまとめる。 本科目の単位の習得には、90時間の学習が必要です。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	・看護方法論 および看護方法論 の単位修得が予定であることを前提に実習を行います。単位の修得ができない場合は履修できないことがあります。 ・看護方法論 ・ ・ で学んだ内容を復習して、実習に参加してください。 ・教員は実習が円滑に進むように皆さんのサポートをします。 ・教員の役割 1.臨地において、効果的に学習するためのサポートを行います。 2.サポートのために、病棟と協力体制を取ります。 ・朝、皆さんの体調を確認します。 ・皆さんの計画した援助が実施可能か、朝の患者さんの状態を確認します。 ・実習が効果的に進められすように、指導者と協力してサポートします。 ・学生の皆さんからの相談を受けます。 ・オフィスアワー：随時対応しますが、メールなどで事前に連絡してください。 小林メールアドレス：ckobaya@shinshu-u.ac.jp 小林千世研究室：保健学科中学校舎4階 ・浅野美礼教授(millet@shinshu-u.ac.jp) ・山口大輔助教(dyamaguchi@shinshu-u.ac.jp) ・上原文恵助教(fumieue@shinshu-u.ac.jp)以外に実習担当教員も対応します。